



## 平成24年度[第16回] 文化庁メディア芸術祭 受賞作品発表 3,503作品の応募から、受賞作品がついに決定!

このたび、平成24年度[第16回]文化庁メディア芸術祭実行委員会では、メディア芸術祭賞(文部科学大臣賞)の受賞作品・受賞者を決定しました。

文化庁メディア芸術祭は、アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門において優れた作品を顕彰するとともに、受賞作品の鑑賞機会を提供するメディア芸術の総合フェスティバルです。本年度は、過去最多となる海外71の国と地域からの1,502作品を含む、合計3,503作品の応募がありました。厳正なる審査の結果、部門ごとに、大賞1作品、優秀賞4作品、新人賞3作品を、功労賞としてメディア芸術分野に貢献のあった4名を選出しました。来年2月12日に開催する贈呈式では、各受賞者に賞状、トロフィーを贈呈します。

また、2月13日から24日までの12日間、国立新美術館(東京・六本木)をメイン会場に、受賞作品等を紹介する受賞作品展を開催します。会期中は作品の展示・上映のほか、受賞者によるプレゼンテーションやシンポジウム等を実施します。魅力溢れるメディア芸術作品が一堂に会する貴重な機会に、ぜひご来場ください。

### ■ 第16回文化庁メディア芸術祭 大賞受賞作品

	
<p>アート部門 Pendulum Choir Cod.Act (Michel DÉCOSTERD / André DÉCOSTERD) [スイス] ©Cod.Act photo:Xavier Voirol</p>	<p>エンターテインメント部門 Perfume "Global Site Project" 真鍋 大度/MIKIKO/中田 ヤスタカ/堀井 哲史/木村 浩康 [日本] ©株式会社ライゾマティクス + 株式会社アミューズ + ユニバーサル ミュージック合同会社</p>
	
<p>アニメーション部門 火要鎮 大友 克洋 [日本] ©SHORT PEACE COMMITTEE</p>	<p>マンガ部門 闇の国々 ブノワ・ベーターズ/フランソワ・スクイテン 訳:古永 真一/原 正人 [フランス/ベルギー/日本] ©2008, 2009, 2010 Casterman, Bruxelles All rights reserved.</p>

### 広報問合せ先

文化庁メディア芸術祭事務局 広報担当[hilo Press内] 鎌倉・星野・佐藤  
Email : jmaf16-pr@hilopress.net Tel : 03-5682-3072 Fax : 03-6369-3596 (受付時間:平日10時~18時)  
〒104-0031 東京都中央区京橋1-14-5-5F



# 1. 応募概況

募集部門 = 4部門(アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガ)

募集期間 = 7月12日(木)～9月20日(木) 71日間

応募総数 = 3,503作品

受賞総数 = 32作品(各部門 大賞1作品、優秀賞4作品、新人賞3作品) / 4名(功労賞)

審査委員会推薦作品数 = 122作品

参考)

## ■ 部門・ジャンル別内訳

インタラクティブアート	232
メディアインスタレーション	288
映像作品	537
デジタルフォト	220
グラフィックアート	189
ウェブ	61
メディアパフォーマンス	98
その他	177
<b>アート部門</b>	<b>計 1,802</b>

ゲーム	108
映像作品	297
ガジェット	48
ウェブ	124
アプリ	95
その他	69
<b>エンターテインメント部門</b>	<b>計 741</b>

劇場アニメーション	23
短編アニメーション	370
テレビアニメーション	61
オリジナルビデオアニメーション	14
その他	34
<b>アニメーション部門</b>	<b>計 502</b>

単行本で発行されたマンガ	223
雑誌等に掲載されたマンガ	97
ウェブで公開されたコンピュータや 携帯情報端末等で閲覧可能なマンガ	67
同人誌等を含む自主制作のマンガ	57
その他	14
<b>マンガ部門</b>	<b>計 458</b>

**応募作品総数**

**3,503**

## ■ 海外からの応募

### 1,502作品 / 71ヶ国・地域

アイスランド、アイルランド、アルゼンチン、アルバニア、アルメニア、イスラエル、イタリア、イラン、インド、インドネシア、ウクライナ、ウルグアイ、英国、エクアドル、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クロアチア、コスタリカ、コロンビア、シリア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スロバキア、スロベニア、セルビア、タイ、台湾、チェコ、中国、チリ、デンマーク、ドイツ、トルコ、ニュージーランド、ネパール、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラディシュ、フィリピン、フィンランド、プエルトリコ、ブラジル、フランス、ブルガリア、米国、ベトナム、ベネズエラ、ペルー、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マレーシア、南アフリカ、メキシコ、ヨルダン、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルク、レバノン、ロシア (五十音順)



## 2. 審査委員(実行委員会)

### 平成24年度[第16回]文化庁メディア芸術祭 実行委員会

会 長 近藤 誠一(文化庁長官)

運営委員 青木 保(国立新美術館長)  
建畠 哲(京都市立芸術大学長)  
浜野 保樹(東京工科大学教授)

#### 審査委員 **アート部門**

岡部 あおみ(美術評論家)  
神谷 幸江(チーフキュレーター/広島市現代美術館)  
高谷 史郎(アーティスト)  
原 研哉(グラフィックデザイナー)  
三輪 眞弘(作曲家/情報科学芸術大学院大学(IAMAS)教授)

#### **エンターテインメント部門**

伊藤 ガビン(編集者、クリエイティブディレクター)  
岩谷 徹(ゲームクリエイター/東京工芸大学教授)  
久保田 晃弘(アーティスト/多摩美術大学教授)  
寺井 弘典(クリエイティブディレクター)  
中村 勇吾(インターフェースデザイナー/tha ltd.)

#### **アニメーション部門**

押井 守(映画監督)  
氷川 竜介(アニメ評論家)  
古川 タク(アニメーション作家)  
和田 敏克(アニメーション作家/東京造形大学特任教授)

#### **マンガ部門**

伊藤 剛(マンガ評論家/東京工芸大学准教授)  
斎藤 宣彦(編集者、マンガ研究者)  
竹宮 恵子(マンガ家/京都精華大学教授)  
みなもと 太郎(漫画家、マンガ研究者)  
ヤマダ トモコ(マンガ研究者)

## 3. 各 賞

### メディア芸術祭賞(文部科学大臣賞)

大 賞: 賞状、トロフィー、副賞60万円  
優秀賞: 賞状、トロフィー、副賞30万円  
新人賞: 賞状、トロフィー、副賞20万円  
功労賞: 賞状、トロフィー

※ このほか、優れた作品を審査委員会推薦作品として選定



## 4. 内覧会・贈呈式

受賞作品展開催に先立ち、2013年2月12日(火)に内覧会ならびに贈呈式を実施します。

**内覧会** 日時=2013年2月12日(火) 14:00~19:00(予定)  
(報道関係者向け) 会場=国立新美術館 1階 企画展示室1E (東京都港区六本木7-22-2)  
※14:00から15:00まで、報道関係者向けの展示作品解説(プレスツアー)を実施します。  
要事前申込。詳細は1月中旬にご案内いたします。

**贈呈式** 日時=2013年2月12日(火) 16:30~17:45(予定)  
会場=国立新美術館 3階 講堂 (東京都港区六本木7-22-2)  
※贈呈式は招待者のみの参加となります。

## 5. 受賞作品展

会期= 2013年2月13日(水)~2月24日(日)  
入場無料

メイン会場= 国立新美術館 1階 企画展示室1E (東京都港区六本木7-22-2)  
休館日= 2月19日(火)  
開館時間= 10:00~18:00 (金曜は20:00まで) ※入場は閉館の30分前まで

サテライト会場= シネマート六本木 他  
※サテライト会場では、作品上映やマンガライブラリー、シンポジウム等を実施する予定です。

**問合せ先** 文化庁メディア芸術祭事務局 (CG-ARTS協会内)  
〒104-0061 東京都中央区銀座1-8-16 3F

[一般受付] Tel: 03-5459-4877 (受付時間: 9時~20時)

[広報受付] Email: jmaf16-pr@hilopress.net Tel: 03-5682-3072 Fax: 03-6369-3596  
〒104-0031 東京都中央区京橋1-14-5-5F  
(hilo Press 内/受付時間: 平日10時~18時)

※イベント、各種プログラムの詳細は1月に公式ウェブサイト (<http://j-mediaarts.jp>) で発表します。

● 受賞作品や受賞作品展の情報を発信!

文化庁メディア芸術祭公式ウェブサイト

Facebook

Twitter

<http://j-mediaarts.jp>

<http://www.facebook.com/JapanMediaArtsFestival>

@JMediaArtsFes

第16回  
文化庁メディア芸術祭  
受賞一覧

	賞名	作品名 作品形態	作者名 [国籍]
アート部門	大賞	Pendulum Choir ミュージックパフォーマンス	Cod.Act (Michel DÉCOSTERD/André DÉCOSTERD) [スイス]
	優秀賞	欲望のコード インタラクティブアート	三上 晴子 [日本]
		BETWEEN YESTERDAY & TOMORROW ウェブ	SOL CHORD(前田 真二郎/岡澤 理奈) [日本]
		Bye Buy 映像作品	Neil BRYANT [イギリス]
		On Pause 映像作品	Mikhail ZHELEZNIKOV [ロシア]
	新人賞	Outback and Beyond メディアパフォーマンス	Grayson COOKE / Mike COOPER [ニュージーランド/イギリス]
		Species series メディアインスタレーション	YANG Wonbin [韓国]
		Strata #4 メディアインスタレーション	Quayola [イタリア]
	エンターテインメント部門	大賞	Perfume “Global Site Project” ウェブ、ソースコード、パフォーマンス、振付、楽曲
優秀賞		あさつての森 映像作品	三木 俊一郎 [日本]
		勝手に入るゴミ箱 ガジェット	倉田 稔 [日本]
		水道橋重工「KURATAS」 ロボット	倉田 光吾郎/吉崎 航 [日本]
		GRAVITY DAZE/重力的眩暈: 上層への帰還において、彼女の内宇宙に生じた摂動 ゲーム	外山 圭一郎(GRAVITY DAZEチーム) [日本]
新人賞		どうでもいいね! ウェブ	IDPW [日本]
		永野 亮「はじめよう」 ミュージックビデオ	新井 風愉 [日本]
		ハイスイノナサ「地下鉄の動態」 ミュージックビデオ	大西 景太 [日本]
アニメーション部門		大賞	火要鎮 短編アニメーション
	優秀賞	アシュラ 劇場アニメーション	ジョージ 秋山/さとう けいいち [日本]
		おおかみこどもの雨と雪 劇場アニメーション	細田 守 [日本]
		グレートラビット 短編アニメーション	和田 淳 [日本]
		グスコブドリの伝記 劇場アニメーション	杉井 ギサブロー [日本]
	新人賞	布団 短編アニメーション	水尻 自子 [日本]
		LUPIN the Third ～峰不二子という女～ テレビアニメーション	モンキー・パンチ/山本 沙代 [日本]
		Oh Willy... 短編アニメーション	Emma De SWAEF/Marc James ROELS [ベルギー]
マンガ部門	大賞	闇の国々	ブノワ・ペーターズ/フランソワ・スクイテン 訳: 古永 真一/原 正人 [フランス/ベルギー/日本]
	優秀賞	岳 みんなの山	石塚 真一 [日本]
		ましろのおと	羅川 真里茂 [日本]
		ムチャチャョ ある少年の革命	エマニュエル・ルパージュ [フランス]
		GUNSLINGER GIRL	相田 裕 [日本]
	新人賞	凍りの掌 シベリア抑留記	おざわ ゆき [日本]
		千年万年りんごの子	田中 相 [日本]
		ぼくらのフンカ祭	真造 圭伍 [日本]
	功労賞		佐藤 茂 音響技術者
		江並 直美 電子出版物プロデューサー	
		大河原 邦男 メカニックデザイナー	
		小長井 信昌 編集者	

## 大賞

### ペンデュラム クワイア

# Pendulum Choir

ミュージックパフォーマンス

コッド アクト ミシェル デコス テール アンドレ デコス テール  
Cod.Act (Michel DÉCOSTERD / André DÉCOSTERD) [スイス]

©Cod.Act



● 作品映像

<http://www.youtube.com/watch?v=vsXs3GUrw64>

©Xavier Voirol



ミシェル デコス テール  
Michel DÉCOSTERD (右)

1969年、スイス生まれ。専門領域は造形美術、建築、サウンドマシーンなど。

アンドレ デコス テール  
André DÉCOSTERD (左)

1967年、スイス生まれ。音楽家、作曲家、プログラマー。

**Cod.Act** (コッド・アクト)

Cod.Act名義のもと、AndréとMichelは互いのノウハウを融合させ、パフォーマンスやインタラクティブインスタレーション等を展開してきた。彼らのアプローチの根底にあるのは音と動き、そしてそれらの相互作用の可能性についての洞察である。1999年以來この2人が制作してきた複雑な装置は、無駄がなく機能的で、インダストリアルな世界を想起させる。Cod.Actの創る装置は、物理的な動きを音の現象へと翻訳する。

[受賞者コメント] 2回目の大賞受賞という素晴らしいニュースは、私たちにとって嬉しい驚きでした。というのも、この作品は私たちがこれまで目にしてきたメディアアートやデジタルアートの芸術的な言語から逸脱しているように感じていたからです。『Pendulum Choir』は合唱と演劇芸術そして機械工学が融合した作品です。試行錯誤を重ねながら、3つの領域に生じる特徴を最良の状況で結びつけることを目指しました。

今回の受賞については、私たちがつねに作品で表現しようとするクオリティを審査委員に認めていただいたことを大変誇りに思います。その感度の高さと柔軟性に心から感謝し、またこれが文化庁メディア芸術祭の質となり特徴になっていると感じます。東京に行き、この作品を紹介するのが本当に楽しみです。お会いするのを楽しみにしています。

### 作品概要

9人のアカペラと18の油圧ジャッキからなるオリジナル合唱作品。歌手たちは角度可変の台座の上に立ち、生きた音響要素となる。9人はさまざまな状態に置かれた身体から音を生み出し、変化する音に合わせてなめらかに体勢を変えてゆく。彼らが発するのは、抽象的な音、反復する音、詩的あるいは物語的な音などさまざまである。9人の身体と声は重力と戯れ、そして抗う。互いの体避け合いながら、繊細なポリフォニーを創りあげてゆく。合唱は、電子音を伴って一体感を打ち破りながら盛り上がりを見せ、または秘教的な祭礼のように停止する。彼らの身体は機械仕掛けの寓意のなかを生から死へと進んでいくのだ。

テクノロジーの複雑性と生身の身体の叙情が融合した『Pendulum Choir』は創世的な特質をそなえた作品といえる。

### 贈賞理由

声楽家たちの身体をコンピュータ制御によって一方的に揺らしながら「合唱させる」という、わかりやすく、エンターテインメントのようにも見えそうなこの作品は、しかし機械(テクノロジー)社会のただなかに生きる「人間の表現」というものの本質を深く考えさせるものだった。声楽家たちは表情豊かに歌っている。しかし、目に見えるその様子はもはや人間によるものではない。彼らの身体は直立不動のまま機械に縛り付けられているのである。伝統に従って声を合わせて歌う人間たちと、その動きを個別に統制、制御する機械システムとの違和感を伴う不可分な関係性こそがこの作品の卓越した魅力である。それはもはや人間のみによってなされるものではなく、高度なテクノロジーとともに人間が創りうる芸術の未来を予感させるものだった。また、その背後にはアイデアを実現する高い技術力、さらには、この作品の完成度に見合う、電子音響を伴う声楽パートの優れたコンポジションが存在している。

## 大賞

### パ フ ェ ヴ ェ ム グ ロ ー バ ル サ イ ト プ ロ ジ ェ ク ト

# Perfume “Global Site Project”

ウェブ、ソースコード、パフォーマンス、振付、楽曲

真鍋 大度 / MIKIKO / 中田 ヤスタカ / 堀井 哲史 / 木村 浩康 [日本]

©株式会社ライゾマティクス+株式会社アミューズ+ユニバーサル ミュージック合同会社



●プロジェクトサイト

<http://www.perfume-global.com/>



真鍋 大度 MANABE Daito (1)

1976年、東京都生まれ。アーティスト、プログラマーとして活動。デザインファーム ライゾマティクス、ハッカーズスペース4nchor5 La6ディレクター。高度なプログラミング技術と徹底したリサーチ、独創的なアイデアでエンターテインメントをはじめ多様なジャンルにおいて新たな境地を切り拓く。

MIKIKO (2)

1977年、東京都生まれ、広島県育ち。演出振付家。Perfumeの振付・ライブ演出を手がけるほか、さまざまなMV・CM・舞台の振付を行なう。空間を色づけ、まるで音が見えてくるような振付は、歌詞の世界観を視覚で広げ、踊り手の魅力を最大限に引き出す。「五感に響く作品作り」がモットー。

中田 ヤスタカ NAKATA Yasutaka (3)

1980年、石川県生まれ。音楽家。Perfume、きゃりーぱみゅぱみゅのプロデュースをはじめ、国内外数々のアーティストを手がける。メインの活動の場となるユニット「capsule」ではサウンドメイキングのみならず、PV、アートワーク、スタイリングまでを監修。近年は映画のサントラ制作など多方面に活躍中。

堀井 哲史 HORII Satoshi (4)

1978年、埼玉県生まれ。東京造形大学デザイン学科卒業。IAMAS DSPコース卒業。プログラミングを主体に映像制作を行ない、インストール、ライブパフォーマンス、VJ、コマーシャルなどさまざまな形態で作品発表、デザインワークを手がける。

木村 浩康 KIMURA Hiroyasu (5)

1981年、千葉県生まれ。東京造形大学卒業。ライゾマティクス アートディレクター、デザイナー。

[受賞者コメント] この度は素晴らしい賞を頂戴し大変嬉しく思います。深いご理解を示してくださったプロジェクト関係者の皆様、二次創作に参加して下さったすべてのクリエイター、ファンの方々に心よりの御礼を申し上げます。Perfumeのような第一線のポップアーティストで実験的なオープンソースプロジェクトを実現し、成功させたことでエンターテインメントの新しい形を示せたように感じています。海外での成功を願ってこの賞をPerfumeの3人に捧げたいと思います。

## 作品概要

テクノポップグループPerfumeの世界デビューを記念したプロジェクト。ファンとクリエイターの手によって世界へ羽ばたくという一貫したコンセプトのもと、ティザーサイト、オープンソースプロジェクト、そしてPerfumeメンバー本人たちによるライブパフォーマンスまでを包括する大プロジェクトを企画・制作した。本サイト立ち上げ後のオープンソースプロジェクトでは、オフィシャルウェブサイト上でオリジナル楽曲と振付のモーションキャプチャデータをフリーで配布。ソーシャルコーディングサービスgithub上にはデータを使用するための機能拡張やサンプルコードを用意してプログラマーによる二次創作を促した。これにより世界各国からヴァリエーションに富む500以上のプロジェクトが生まれた。世界ツアーでは本プロジェクトで生まれた作品の公開、そして配布した楽曲と振付を用いた本人たちによるパフォーマンスを行なった。

## 贈賞理由

言わずと知れたPerfumeの世界デビューのためのプロジェクトである。これまでもアイドルという立ち位置を崩すことなく、最先端テクノロジーを用いたミュージックビデオやパフォーマンスを行なって来た彼女たち。今回は世界デビュー用のオリジナル曲の楽曲データとモーションキャプチャデータを配布して、ファンとクリエイター、いやファンというクリエイターたちとともに世界に向けたPerfume像を作り上げた。彼女たちの特徴的なダンスは、以前よりネット上でそれを「踊ってみた」というかたちで人間にコピーされたり、あるいはTHE IDOLM@STERや初音ミクなどの仮想アイドルに踊られてきた。つまり数々の二次創作のためのソースとして流通してきていた。本プロジェクトは、コンシューマによるこうした創作のうねりを否定するのではなく「創作の現在形」として公式に、そして用意周到に後押しした。その行為自体がエンターテインメントという「創作の現在形」になりえたのだろう。

## 大賞

ひの よう じん

### 火要鎮

短編アニメーション(12分43秒)

大友 克洋 [日本]

©SHORT PEACE COMMITTEE



©SHORT PEACE COMMITTEE

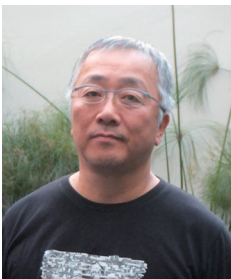
#### 作品概要

18世紀中頃の江戸の町。商家の娘「お若」と幼馴染の「松吉」。惹かれあう2人であったが、松吉は家を勘当され町火消しとして生きる。そんな最中、お若の縁談の話が進み始めた。松吉への思いを忘れられない彼女の狂った情念からの行動は、大火事を引き起こし江戸の町を焼き尽くす。その大火のなかで再びめぐり合う2人。巨大都市江戸の大火を舞台としたスペクタクル。本作は、伝統的な日本画の画風を映像表現のモチーフとし、舞台である300年前の東京(江戸)の風俗や道具、生活を再現する描写にこだわった。また、作画のアニメーションの表現と3DCGによる表現を融合させ、斬新な映像表現を実現した。

#### 贈賞理由

江戸町火消したちの木遣が流れるなか、一巻の絵巻物が紐解かれる。現われたタイトルに「戯作活動錦絵」とある。わくわくする。歌川広重や溪斎英泉の名所絵を思い出させる大川端のパノラマ絵が、絵巻が解かれる方向にスクロールされる。両国橋から神田錦町へ。やがて風景画は大店の庭に遊ぶ男の子と女の子に焦点を合わせていく。菱川師宣の浮世絵のように美しい。静かでとびきり美しい絵がこれから展開される情炎の物語への期待を抱かせる。景色が突然後ろに戻される。ここでカメラアイだったことにはたと気がつく。

江戸の振り袖火事と呼ばれた「明暦の大火」や「八百屋お七の大火」などを題材に作られたフィクションが華麗にドラマチックに繰り広げられる。16対9の比率の画面サイズがこれほどピッタリの作品はない。歌舞伎を2階の最前列で鑑賞しているような、昔のジオラマのスペクタクルな画面を追体験しているような特別な興奮があった。日本発のアニメーション。



©SHORT PEACE COMMITTEE

大友 克洋 OTOMO Katsuhiko

1954年、宮城県生まれ。1973年、漫画家デビュー。その後、『童夢』『AKIRA』(1983)などを発表する。また『AKIRA』のアニメーション監督を自ら務め、ほか、監督作品として『MEMORIES』『STEAMBOY』等。

[受賞者コメント] 素晴らしい賞をありがとうございます。やりたい企画もなかなか通らず、いろいろと厳しいことの多い昨今でしたが、前向きに先を目指しています。若い人たちの作品も含め、革新的なオリジナルのアニメーション作品が世に出せる業界の環境がもっと整ってくるとよいと思っています。この度はありがとうございました。



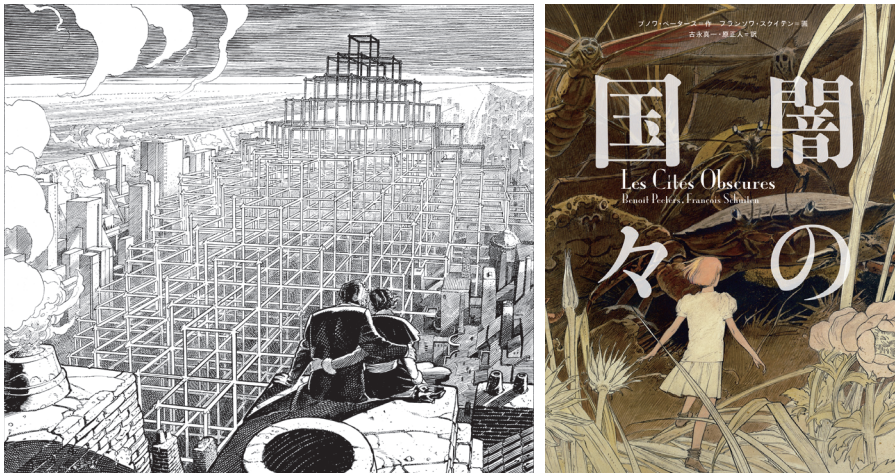
大賞

# 闇の国々

ブノワ・ペータース／フランソワ・スキイテン 訳：古永 真一／原 正人

[フランス／ベルギー／日本]

©Benoît Peeters, François Schuiten, Casterman, 小学館集英社プロダクション



©2008, 2009, 2010 Casterman, Bruxelles All rights reserved.



©Isabelle Franciosa - Casterman - 2012

## ブノワ・ペータース Benoît PEETERS (左)

1956年、フランス、パリ生まれ。1980年代から幼なじみのフランソワ・スキイテンとともに『闇の国々』シリーズを手掛け、以後、BDの原作者として活躍。同シリーズは10の言語に訳され、数々の賞を受賞した。BD以外にもエッセイ、評伝、映画、テレビ、ラジオドラマの制作など多岐にわたる活動を展開している。

## フランソワ・スキイテン François SCHUITEN (右)

1956年、ベルギー・ブリュッセル生まれ。1970年代からBD作家として活動をスタートし、『闇の国々』シリーズで一躍人気BD作家の仲間入りを果たす。今やヨーロッパの至るところでスキイテンのイラストを見ることができるほどの、まさにBD界を代表するアーティストのひとり。

**[受賞者コメント]** 文化庁メディア芸術祭より大賞をいただいたことを知り大変驚き、感動しています。私たちが以前より愛している国であり、尊敬している多くの素晴らしいアーティストを生み出したこの日本において、私たちの仕事が理解されたことにとっても大きな喜びと誇りを感じています。この賞は、私たちが30年前から共作している『闇の国々』が評価されたことだけにとどまらず、日本のマンガとヨーロッパのBDの間に新しい絆ができたことを示していると思います。

この場をお借りして、素晴らしい仕事を成し遂げてくれた小学館集英社プロダクションと翻訳者の方々に感謝を申し上げます。また日本でのエージェント業務に携わったカンタン・コリーヌさんと日本語版の制作に携わった関澄かおるさんにもお礼を申し上げます。

## 作品概要

われわれの現実世界と紙一重の次元にある謎の都市群「闇の国々」。そこで繰り広げられる摩訶不思議な事件の数々を描く、フランス・ベルギーのコミック(バンド・デシネ[以下BD])の人気シリーズ。これまでに10の言語に翻訳され、数々の賞を受賞している。現在までに、正編12冊、番外編12冊の計24冊が刊行されており、日本語版第1巻となる本作『闇の国々』(2012年刊行)には、そのなかから3作品を収録。ある日突然増殖しはじめた謎の立方体に翻弄される人々を描く『狂騒のユルピカンド』、巨大な塔の秘密をめぐる冒険から、数奇な運命へと導かれる男を描く『塔』、未知の天文現象により、体が斜めに傾いてしまった少女の半生を描く『傾いた少女』など、あらゆる芸術への深い素養に根差した厚重なストーリーを、1ページに1週間かけるといふ、緻密にして技巧の粋を極めた絵で描く。以下、『闇の国々II』に続き、2013年にかけて全4巻で刊行予定。

原書の出版年月:1985年1月~1996年1月

翻訳書の出版年月:2011年12月19日

## 贈賞理由

ブリュッセルの同じ中学を卒業した2人の作家、絵を担当するスキイテンと脚本担当のペータースによるシリーズ『闇の国々』。各話に人間の主人公はいるが、異世界をまるごと作り出すこと——その構築された世界・建造物・背景——が本作の主役であるといえる。フランス語圏のマンガ=BDのかたちで発表され、イラストワークの緻密さとともに、すでに各所で高く評価されている。そのシリーズの全貌が、やっと日本で翻訳出版されはじめ、ペータースの脚本の素晴らしさとあいまって堪能できるようになりつつある。シリーズ最初の作品が世に出て30年近く経つが、本作は時空を超えて新しい。日本マンガは世界に誇る文化だと打ち出すならば、世界のマンガのレベルを知る必要があるだろう。本作はそれを知るにふさわしい作品。文化の違いに触れる喜びと、面白い作品は文化の違いを超えて共有できるという喜び、本作はそれを同時に感じさせてくれる稀にみる作品である。



平成 24 年度 [ 第 16 回 ] 文化庁メディア芸術祭 受賞作品発表  
 広報用画像貸出申請書

「第 16 回文化庁メディア芸術祭」広報用として、下記の画像データをご用意しております。貸出をご希望の方は、こちらの申請書に必要事項と希望の画像のアルファベットまたは番号を○で囲み、文化庁メディア芸術祭事務局広報担当 [hilo Press 内] までお送り下さい。

[ 第 16 回 ] 各種ロゴ

[A]



[ 第 16 回 ] 文化庁メディア芸術祭受賞作品

[1] アート部門大賞



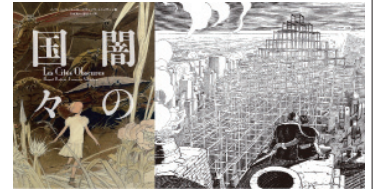
[2] エンターテインメント部門大賞



[3] アニメーション部門大賞



[4] マンガ部門大賞



指定キャプション：

- [1] アート部門 大賞 『Pendulum Choir』 Cod.Act (Michel DÉCOSTERD / André DÉCOSTERD) ©Cod.Act photo:Xavier Voirol
- [2] エンターテインメント部門 大賞 『Perfume "Global Site Project"』 真鍋 大度 / MIKIKO / 中田 ヤスタカ / 堀井 哲史 / 木村 浩康 ©株式会社ライゾマティクス + 株式会社アミューズ + ユニバーサル ミュージック合同会社
- [3] アニメーション部門 大賞 『火要鎮』 大友 克洋 © SHORT PEACE COMMITTEE
- [4] マンガ部門 大賞 『闇の国々』 ブノワ・ペータース / フランソワ・スクイテン 訳：古永 真一 / 原 正人 ©2008, 2009, 2010 Casterman, Bruxelles All rights reserved.

昨年度 [ 第 15 回 ] 文化庁メディア芸術祭受賞作品展の様子

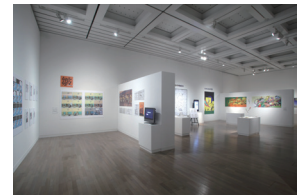
[5]



[6]



[7]



指定キャプション ([5] [6] [7] 共通)： 昨年度 [ 第 15 回 ] 文化庁メディア芸術祭受賞作品展の様子

<画像のご使用にあたって>

- ※画像のご使用は「第 16 回文化庁メディア芸術祭」をご紹介いただく場合に限りさせていただきます。フェスティバル終了後は使用できません。
- ※作品画像 [1] ~ [4] は全図でご使用ください。部分使用や作品に文字や他のイメージを重ねることはお控えください。
- ※指定キャプションを必ずご記載いただきますようお願いいたします。(部門名・賞名・作品名・作家名は文中に掲載されていれば省いてもかまいません。)
- ※校正ゲラを事務局広報担当までお送りください。

貴社についてお知らせください

貴社名 / ご所属 \_\_\_\_\_

ご担当者名 \_\_\_\_\_ 様

ご住所 〒 \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

ご出版・放映・掲載予定日 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

貴媒体名 \_\_\_\_\_

Tel \_\_\_\_\_

Fax \_\_\_\_\_

Email \_\_\_\_\_

<個人情報の取り扱いについて>

ご記入いただきました個人情報は、文化庁メディア芸術祭広報からの情報配信やご案内等必要なご連絡のみ使用いたします。許可なく第三者に個人情報を開示することはありません。